

## 1. 特に効果的であり改善に資した事例について

### A. コースワークの充実・強化

#### ①人材養成目的に沿った科目構成の整理

##### 《人社系》

#### ●慶應義塾大学政策・メディア研究科政策・メディア専攻

#### 「社会イノベータ育成コースの創設」の事例

##### (具体的に何を実施したのか)

- ・社会イノベータ（事業センスと公益センスを兼ね備え、持続性のある、かつ、生産性の高い社会を実現する人）を養成するための効果的かつ先進的なカリキュラム、科目を構築した。春学期に対面講義 11 科目、e 科目（遠隔講義）6 科目、秋学期に対面講義 8 科目、e 科目 6 科目を開講。特に、コア科目である「個益公益のデザイン」では、コース担当教員全員が出講し、さまざまなフィールドから個益と公益の両立を実現するためのプラットフォーム設計のあり方について学んでいる。
- ・また、マイプロジェクトやキャップストーンプロジェクトと称したプロジェクトベースドラッシングを導入し、自らプロジェクトを立ち上げ実践するための仕組みを提供した。

##### (実施に当たり特に考慮・工夫したことや、注意を払ったこと)

- ・オリエンテーション合宿や FD 合宿を実施し、多様な専門分野の教員の柔軟かつ緊密な連携が図れるようにすることで、本コースの多彩な教育プログラムの提供が可能になった。
- ・また、マイプロジェクトやキャップストーンプロジェクトにおいては、外部識者によるフィードバックを行い、PDCA サイクル（企画→実践→発表会→改善）によって効果があげられるように配慮している。
- ・コース担当教員たちの共著による『社会イノベータへの招待-「変化をつくる」人になる』を上梓し、コースの教科書として活用するとともに、広報活動にも役立っている。

##### (どのような結果が得られたのか、どのような良い影響があったのか)

- ・講義、プロジェクトベースドラッシングの融合によって、今まで明らかにされてこなかった、事業性と社会性の両立のための具体的方策について理解が深まった。
- ・海外の貧困問題解決のための事業を立ち上げ大手メディアに紹介される学生などの社会の問題解決に挑む学生たちが多数生まれている。

## 1. 特に効果的であり改善に資した事例について

### E. 学習・研究環境の改善

#### ④ICT 技術を利用した遠隔教育の推進

##### 《人社系》

#### ●慶應義塾大学政策・メディア研究科政策・メディア専攻 「社会イノベータ育成コースの創設」の事例

##### (具体的に何を実施したのか)

- ・コースの代表的な講義である、「個益公益のデザイン」、「地域情報化論」、「低炭素社会設計論」などはe科目（映像アーカイブを用いた授業）としても提供している。
- ・また、コース担当教員全員が出講するコア科目の「個益公益のデザイン」は、対面の授業とWeb会議のハイブリッドによるディスカッションを組み合わせ提供している。

##### (実施に当たり特に考慮・工夫したことや、注意を払ったこと)

- ・学生からのコースに対する要望を確認する座談会を開催した。その際、「Web会議システムがとても充実している。社会人や仕事をされている方が時間を気にせずに授業を受けられるのはすごく便利だと思っている。課題としては、全員で話すことができないこと。システムの充実を希望する」(要約)という要望があった。そのため、全ての問題点を抽出し、効果的な講義運営につながるようなシステム改善を行い、高い評価を得られるようになった。

##### (どのような結果が得られたのか、どのような良い影響があったのか)

- ・地理的・時間的制約にとらわれることなく、教員、学生との議論の場として有効に機能し、実践知の創造に極めて有効であることが実証された。
- ・その結果、内部進学者だけでなく、他大学出身者、社会人など多様な人々が志願している。また、明らかにコース外の学生にも意欲、行動力、問題発見・解決能力などの面で好影響を与え、大学院全体をリードする頼もしい存在になっている。